

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム蔵(なでしこ館)	評価実施年月日	平成22年1月22日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月29日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域とのかかわりと、個人のその人らしさを大切とした理念を、全職員で話し合い作っている。玄関、居間に掲げ、又業務日誌に綴じ、常に目に入るようにしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング、ケアカンファレンス等で確認し、常に実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族へは家族会や家族通信などで理念に沿った活動を報告している。</p>	○	<p>地域については公開日や見学等で来訪された時に説明していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホームの行事への参加を呼びかけたり、町内の行事に参加したりしている。町内の回覧板を利用し、グループホームを知ってもらえるように努めている。近所の方々はごみ捨て時など、日常的に挨拶を交わしている。お隣の方は除雪をして下さっている。</p>	○	<p>よりいっそう隣近所の人たちとの日常的な付き合いに努め、互いに助け合える関係になれるようにしていきたい</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、町内の清掃、新年会等に参加し地域の人と交流するように努めている。又、定期的に近所の方がボランティアで紙芝居を披露してくれている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通し、役立つことはないかを話し合ってきた。介護について地域の方からの相談を受け入れる為、窓口を設けている。又、町内会長様が回覧板にホームの情報を入れてくださったりなど協力を得ている。介護に係わる相談、及び、ホームの見学を兼ねた公開日を設け、実施し、地域の方からの相談に応じた。</p>	○	<p>相談に訪れやすいように公開日を設けたりしているが相談を受けることは少ない。開催日数を増やすなど、これからも、地域に広く相談窓口があることやグループホームを知ってもらえるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価については、皆理解しており、改善すべき点はその都度話し合い、改善している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームの活動内容や評価への取り組み状況等については、会議の中で報告し、意見をもらっている。又、ホームのクリスマス会に参加していただき、利用者様と過ごし、感じたことを伝えてもらいサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外に行き来する機会は少ないが、包括支援センター職員の方に相談等をし、改善に努めている。	○	サービスの質向上のため、市町村担当者からの意見や指導を、積極的に受けていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加し、学ぶ機会を持っている。研修の内容を記録し、職員に回覧しているが、さらにミーティング等の機会に学んだ事を他の職員に広め、活用につながるような努めが必要。	○	学んだ事を記録のみでなく、直接他の職員に伝える機会を持ち、活用につなげたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。グループホーム内での虐待については、職員とも十分に話し合い、利用者様の様子を観察し注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談時、または契約時に詳しく説明し、理解、納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に機会は設けてはいないが、いつでも意見、不満等は管理者や職員に伝えていただけるよう、声かけをしたり、信頼関係を作るよう努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月一回の家族通信で利用者様の様子やグループホームの活動等を報告している。健康状態に変化があればその都度連絡している。金銭管理は個別にお小遣い帳があり、毎月、居室費等の請求書と一緒に郵送している。	○	職員の異動等については家族通信等で入社の報告はしている。利用者様個々の状況の報告等は、その都度行い、家族ノートに記入して、職員間で共有している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会者カードや行事等のお知らせの手紙に要望欄を設け、意見をいただけるよう努めている。その外、ホームの行事の後に家族会を開き、要望等を聞いている。家族会を開催する時は、事前に来訪できる日付を聞き、より多くのご家族が出席出来る様努めている。不満や苦情については、よく検討し改善できるよう努めている。	○	ご家族の来訪時に意見を聞いたり、家族会について、家族会のあり方と内容を検討し、より多くのご家族が参加できるよう工夫し、意見を頂き反映していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	特に機会は設けていないが、毎朝のミーティング時には運営者や管理者も参加し、意見を聞けるよう努めている。それ以外は個別に対応している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度話し合い、柔軟に対応できるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や退職は最小限に抑えるよう努力はしているが、職員の病気や体力的な事、家庭の事情等で代わっているのが現状である。その為、日々スタッフへの配慮はしている。		職員のスキルアップの為の異動を行なっているが、利用者様への悪影響を避け、利用者様と長期間かかわれるよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員研修では、職員の中から研修係を決め、係りは、希望する研修内容を職員から聞き年に4回実施している。また、外部の研修にも段階に応じて参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者会議等で同業者との交流はしている。その場限りで終わってしまうこともあるが、少しずつ交流を深め、相互の意見交換等を通じて、サービスの向上に努めている。今年度は、同区のグループホーム同士、数回の互いの訪問等で見学や情報交換を行なった。	○	さらに地域のグループホームと交流の機会を持てるように努めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個別に個人面談を実施し、職員の思いに耳を傾けている。年3回、職員の懇親会を行っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の仕事に対する取り組みが良い場合は、さらに向上心を持ってもらえるよう声をかけ、評価を伝えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時にご本人にも来訪していただいたり、管理者やケアマネージャーが自宅や病院を訪問し、できるだけご本人の思いを汲み取るように努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時にご家族からよく話を聞き、不安等を汲み取る。また、グループホームでのケアの内容や生活の流れなどを説明し、利用するにあたり、心配を最小限にできるよう努めている。	○	一度だけではなく、可能な限り、会う機会を持ち、不安等を解消できるよう、お互いの理解を深めるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	これまで利用していた支援等の情報や身体状況を見極め、対応を行っている。訪問診療や通院、必要な福祉用具についても対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを 利用するために、サービスをいきなり開始 するのではなく、職員や他の利用者、場の 雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している。	グループホームの見学時には、なるべく来訪してもらい、じっくりと話を聞いたり、ホームの雰囲気を覚えてもらっている。また、体験入居等で徐々にホームに馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている。	ご本人の豊かな人生経験を生かし、畑仕事や料理、裁縫を教わったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。又、職員が人生相談にのってもらうこともある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている。	ご家族にも協力していただき、来訪してもらったり、ご本人が不穏な状況の時は電話等で安心できる声かけをお願いしている。又、家族会等で認知症の理解を深め、ご家族や職員がご本人の傍に居ることの大切さを伝えている。来訪時やホーム便りなどで、個別に認知症に伴う症状の変化を伝え、理解を深めている。	○	さらに認知症の理解を深めていただく機会を作り、ご家族の協力が重要であることを伝えていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、よりよい関係が築いていけるよう 支援している。	生活の様子や体調の変化などを詳しく伝え、より関心を持って頂き、良い関係が築いていけるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないう、支援 に努めている。	馴染みの場所には、職員が同行し満足してもらえるよう、支援している。また、馴染みの人が来訪された時は居室等でゆっくり談話を楽しんで頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様同士の関係を考慮し、テーブルの席などを工夫している。又、関係が悪化しそうな時は、職員が間に入り、トラブルにならないよう努めている。家事やリクレーション等で互いに協力や、助け合いが出来る関係づくりに努めている。	○	利用者様同士の関わり合いが、良いものになるよう職員が連携し、互いに支え合えるように援助したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホームの行事等の際、ご家族から手伝いを申し入れてくださり、手伝っていただいている。また、手紙等で付き合いを大切にしている。退去先の病院等にも行き、様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望やご家族からの情報で把握に努めている。ご本人をよく理解し、好きな事や嫌いなことなどを見極めるようセンター方式などを利用し努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人、それまでのサービス利用の事業所からの情報等でご本人の暮らしの把握に努めている。	○	家族会やその他の機会に、ご家族や知人等から、さらに情報を得よう努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の心身の状態に細かに気を配り、介護日誌に記入し、職員全員が把握できるよう、業務に入る前には必ず目を通して。又、介護計画の見直し時期や状況変化時などには、センター方式のシートを使い、現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画見直し時は、管理者、介護職員、看護師などでカンファレンスを行うが、ご家族の参加はほとんど無い。しかし、課題となることについては、その都度、又は来訪時に、ご家族に相談し、介護計画に反映できるように努めている。	○	ご家族には、介護計画書の説明時等に意見を伺っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>ご本人に状況変化があれば、ご家族に伝えるとともに、管理者、介護職員、看護師らとカンファレンス等で話し合い、計画の見直しをしている。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子、ケアの内容、気づき、工夫などは個別に介護日誌に記入している。また、介護計画は介護日誌記入時にすぐに見ることが出来るようファイルしており、毎日、計画に沿ったケアの内容をプラン実施欄に記入し、計画の見直しに役立っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を活かし、負担となる受診や入院を回避している。また、ご本人やご家族の状況に応じ、通院等の必要な支援を行っている。又、フリープランとして個々の行きたい所を聞き、職員一人がついて出かけている。自己判断が難しい利用者様については、その日の状態を見ながら、外出している。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>年1回、火災避難訓練を、消防署の協力を得て行っている。また、月一回、ご近所の方がボランティアで紙芝居を披露して下さっている。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>運営推進会議での交流はある。その他、ご本人の必要性に応じ、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者に相談し、他のサービスを利用する為の支援を行っている。月一回の生け花教室や、個別に週一回のマッサージを受けている利用者様もいる。</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議で交流があり、アドバイスを頂いている。</p>	○	<p>今後も必要に応じて相談し、協働していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所と訪問診療の医師は信頼関係が出来ており、医師はご本人及びご家族等の希望を大切に、対応している。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>訪問診療の医師、又は、専門医を受診し、相談しながら治療を受けている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>非常勤の看護師を確保して、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>書面や口頭での情報提供をしている。見舞いに行き、ご本人が安心できるよう努めている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居契約時に書面で方針を説明している。重度化が予想される場合は、訪問診療の医師を中心に、ご家族と話し合い、方針を共有できるよう努めている。又、家族会等で話し合いの機会を設けている。</p>	○	<p>よりいっそう、方針を共有できるよう努めて行きたい。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化が予想される場合は、訪問診療の医師を中心に指導を受け、対応できるよう努めている。又、研修会を開き、今後の変化に備えるよう勉強をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関するケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族やご本人、ケア関係者と話し合い、馴染みの家具やご本人の持ち物等を住み替え時にも使用する事や、馴染みの人などの関係が継続できるよう支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>守秘義務はスタッフ同士で声かけし、徹底して守っている。言葉かけや対応についても意識するように心掛けている。</p>	○	<p>今後も徹底していきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定できる利用者様には、ご本人で決めていただいている。ご本人で決定することが難儀な時は助言を行っている。</p>	○	<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>行事等の場合は職員のペースでの行動があるが、基本的には、ご本人の時間の過ごし方を優先するよう、心がけている。不穏な状況がある場合は、ご本人に合った作業等を声かけし、支援している。</p>	○	<p>日々、利用者様個人のペースに合わせ、過ごしていただけるよう、意識し支援していきたい。共同生活ではあるが、利用者様の思いを汲み取り、穏やかに生活していただきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月一回、訪問理美容を利用している。髭剃りや髪の手入れ、爪切り、耳掃除等は、ご本人、又は職員が適宜行っている。</p>	○	<p>希望があれば、ご本人の馴染みの美容室等も利用できるよう配慮していきたい。ご家族の協力で馴染みの美容室へ行っている利用者様もいる。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備、盛り付け、配膳、後片付けは一人一人の力を生かせるよう、配慮しながら、無理強いないように働きかけを行っている。</p>	○	<p>時間になると声をかけてくれる利用者様もおり、生活のペースが出来ている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望状況により、職員が同行し、嗜好品等を購入している。喫煙については、該当者はいない。お酒についてはノンアルコールビールで対応している。	○	今後も継続していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中、夜間ともに、一人一人の排泄のパターンを把握し、ご本人のしぐさや行動からも排泄のサインを見逃さないよう心がけながら、支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯など職員の都合で決めていることは多いが、ご本人の希望や体調等を考慮し支援している。夏季の気温が高い日などは、シャワー浴や清拭で臨機応変に対応している。	○	決められた曜日以外でも、臨機応変に対応していきたい、
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の意思や身体が辛い様子があれば、声かけし、居室で休息していただいている。冬季には、室温、及び乾燥に注意している。	○	不安等の理由により、良眠出来ない事があるような時は、声かけで安心していただいたり、傾聴するよう心掛けている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、縫い物(雑巾、布巾、ボタン付け、ほつれ直し)、飾り物作成など体調や自主性を見て、一緒に実施したり、気分転換に買物へ出かけたりしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物の際は、職員が同行し、一人ひとりの力に応じて、ご本人が品物を選び、レジで支払いをしている。また、ご本人の物でなくても、支払いをしていただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望があれば職員が同行し、外出している。利用者様個人の消耗品等の購入は、体調を見ながら、職員と一緒に買物へ行くようにしている。一人で外出できる利用者様は一人で出かけていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回、利用者様の希望を聞き、少人数、あるいは個別に行きたい場所へ出かけ、買物等、好きな事をさせていただいている。	○	これからも、利用者様の状態を見ながら、実施していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様がご家族の話をされたり、ご家族から宅配の荷物等が届いた時など、声かけし、電話等をかけていただいている。また、年賀状などを書いてご家族等に出すなど支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	事前の連絡が無くても、曜日、日時に関係なく来訪できるよう努めている。又、本人の希望がある時はこちらからご家族に会いに行く事もある。	○	ご本人がご家族や知人と会いたいと思われるような言葉、様子が見られた場合は希望に沿い、先方の確認のもと対応していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の行動制限についてマニュアルがあり、研修等にもスタッフが交替で参加し、理解し、身体拘束をしないケアについて全員で話し合っている。月一回の主任会議でも報告の機会を作っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者、職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけない事を徹底している。	○	今後も徹底して継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者様の動き、様子を把握し、長い時間居室に居るときなどは、訪室や声かけなどしている。又、夜間は、利用者様の様子に合わせ、最低でも二時間ごとに様子を見ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤等は使用后、利用者様の目の届かない所に収納している。包丁の出し入れ等の管理は、職員が行っている。	○	今後も継続し危険を防いでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年に一度、勉強会を実施しており、外部で行っている講習に職員が順次参加している。日々のケアの中で職員同士、声を掛け合い、事故防止に努めている。事故が発生した場合は速やかに対処できるよう努めている。	○	今後も勉強会を実施し、新入職員にも指導していきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年に数回、職員研修を行い、応急処置等の確認、不安なことの確認等を勉強、話し合いをしている。それぞれの利用者様に対し、起こりえる事を予測し、対応できるよう、スタッフ間で話し合っている。	○	不安な事等、これからも研修会等で、意見を出し合い、事故発生等に備えていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年一回、消防署の協力を得、地域の方にも参加していただき、火災避難訓練を行っている。その外にも避難訓練を行い、又、職員研修等で話し合いをして確認している。運営推進会議でも度々話し合いをし、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	今後も地域の人々と協力をし、災害時に備えるよう働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	3ヶ月ごとのケアプラン見直しや、毎月のケアカンファレンスを行い、職員で話し合っている。個々のリスクについては、その都度、ご家族に説明している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝食後にバイタルチェックを実施している。異変があれば、その都度対応し、日誌に経過を記入し、職員間で情報を共有し、観察している。	○	訪問診療の医師と連携し、指示を仰いでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助時に、名前、日付、服用時間等を確認している。副作用等については、全員が理解しているとは言えない。薬の変更等があった場合は、日誌に記入し、情報を共有している。	○	いつでも確認できるように、薬の情報は、ファイルされているので、わからない事は看護師に確認し、把握できるよう努めて行きたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日、利用者様一人ひとりの排便確認をしている。便秘が続くようであれば、水分や、牛乳等を摂取していただいたり、踏み台昇降等の運動を促している。また、医師の指示の元、下剤の服用も考慮し、必要に応じ服用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケア時に職員が確認している。ご本人が口腔ケアをしているが、不十分なところは職員が介助している。	○	口の中の汚れが残らないようにしっかり確認し、介助していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態等に合わせて。食事量等を調節したり、水分摂取量が少ない時は、飲み物の種類等の工夫をし、様子を見ながら提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後のうがい、手洗いについては徹底している。又、来訪者の感染予防も同じように声かけし、行っていただいている。外、トイレ後の手洗いや食事の準備等の手伝いの際には手洗いとアルコール消毒をしていただき、感染予防に努めている。	○	継続して予防を徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常に食品の保存方法、期限切れに気をつけ、毎日、調理器具の漂白、殺菌等、衛生管理には気を配り、実施している。	○	夏季の気温の高い日等は、特に食材の管理には気をつけて行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム前の花壇には、利用者様と一緒に色とりどりの花を植えたり、置物を置いて飾っている。	○	四季によって植え替えるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の壁には、季節感のある飾り付けをしている。テレビの前にはソファがあり、利用者様が皆でテレビを楽しめる空間がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間は、利用者様皆で、リクリエーション等ができる広さがあり、個々でくつろげる畳ベンチもある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具等をそのまま使用していただき、ご本人にとって必要だと思われるものは、ご家族と相談し、用意できるよう努めている。また、足元マット等、ご本人にとって転倒の危険等のある物はご家族と相談し、撤去したり、より安全に過ごしやすいよう心がけている。利用者様が使いやすい配置も工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度は、居間と各居室に温度計を設置し、常に温度調節できるよう努めている。湿度も冬季の乾燥する時期には、濡れたタオルを干すなど、特に気を配り、対応している。又、においなどが籠らないように換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はバリアフリーになっている。居室以外には、手すりも設置されている。利用者様に合った、ルームシューズを使用し、歩行しやすい環境になっている。	○	室内のスペースは歩行等に危険がないよう、ゆったりとしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室、トイレには名前シールが貼ってあり、混乱する利用者様は居ない。又、居室の衣類等の収納場所にもシールが貼ってあり、分かりやすく工夫している。	○	今後も自立出来るように工夫していきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外には花壇、家庭菜園を作り、野菜を育てたり、花を楽しむ場所がある。又、秋には利用者様と一緒に野菜を収穫し、外で食事を楽しむ収穫祭を催している。夏季等の気候の良い日には、ベランダで日光に当たりながら、おやつを楽しむこともある。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

普段の生活の中で職員は利用者様のペースを優先できるよう努めている。帰宅願望等で出かけた利用皆様には、なるべくすぐ一緒に出かけられるよう努めている。また、ご本人の行きたい場所の希望を聞いたり、ご本人に合った場所などに個別又は、少人数で外出している。日常の会話の中やちょっとした行動〔窓から外を眺めているなど〕の中の訴えに気がつき、行動できるよう努めている。